



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/797/



エリア

台北市

テーマ

歴史

宗教

川る

行天宫

心の安寧から社会の持続的発展まで、 関羽は今も戦い続ける

行天宮は、別名恩主公廟、鉱山で財を成した黄欉(玄空: 1911-1970年)によって、道教、仏教、儒教の三教を習合した民間信仰の宗教施設(主神は関羽)として1967年台北に建立されました。台北本宮のほか北投と三峡に別宮があります。特に「收驚」と呼ばれるお祓いで知られており、様々な悩みを抱えた人々が台湾全土から訪れ、毎日長蛇の列をなしています。また、敷地外にある地下道は「占い横丁」と呼ばれ、台北で「行天宮に行く」と言うと、「悩みがあって占いに行く」と思われるぐらい有名です。このように一人一人の心と向き合う一方で、2014年には環境保全と節約という観点から、他の宗教施設に先駆けて大香炉と供物を置くテーブルを撤去するなど、持続的な発展といった社会的課題にも積極的に取り組んでいます。

学びのポイント

1.

どうして大香炉や供物のテーブルを 撤去したのですか?

行天宮は設立以来、金紙(神様に奉納する お札)を燃やさない、生贄の家畜を供物にし ない、賽銭箱を置かないことにしてきました。 これは貧富によって信仰が妨げられてはいけ ないという社会的弱者への配慮という行天 宮の一貫した方針によるものです。そのた め、「收驚」を受けた人からも、お礼は受け 取りません。一方、参拝者からの要望を配 慮して、大香炉や供物台を準備していまし た。しかし、参拝者は化学物質を含む線香 をあげ、時には供物を持ち帰らないこともあ るため、大気汚染と食品ロスは、台湾の宗 教施設にとって大きな課題となっていまし た。このため行天宮は関羽に宗教的儀式で 同意を得た上で、大香炉とテーブルの撤去 を実行したのです。他方、近隣で線香や供 物を売る人々は商機を失うこととなり、新た な課題が発生しました。関羽は商売の神様 でもあるので、どう解決するのか注目です。

2.

行天宮はどのような社会活動を 行っているのですか?

台湾の宗教団体は社会との連携を重視する 傾向にあり、行天宮も貧困層、女性、子供、 老人といった社会的弱者へ配慮しつつ、文 化、教育、医療、宗教、慈善の5つの観点 からさまざまな課題に取り組んでいます。文 化・教育面では、台北行天宮附設玄空図書 館を市内4か所に設立し、女性専用の閲覧 室や親子図書館を設けています。また、困 窮家庭への奨学金給付や女性、老人に対 する生涯学習、リカレント教育も行っていま す。医療面では、医療機関未整備地域で あった別宮(行修宮)のある三峡の地域医 療に貢献するために1998年に恩主公医院 を設立し、2016年には高齢社会への対応 として老人ホームを開設しています。これら の活動を信者たちによるボランティア活動が 支えています。

3

別名の恩主公廟とはどういう意味 ですか?他に別名はありますか?

行天宮は、主神である関聖帝君(関羽の神としての名前。以下同じ)のほか、孚佑帝君(呂洞寶)、司命真君(張単)豁落霊官(王善)、忠武穆王(岳飛)を本殿中央に祀っています。これらの神々は、人々に特に恩恵を与えてくれる神様として「五聖恩主」と呼ばれるため、別名を恩主公廟といいます。また、最も重要な主神が関聖帝君であるため、関帝廟とも呼ばれることもあります。そのため、起源を1887年に清朝によって設置された関帝廟(台北武廟)とすることがあります。